あゆみだより

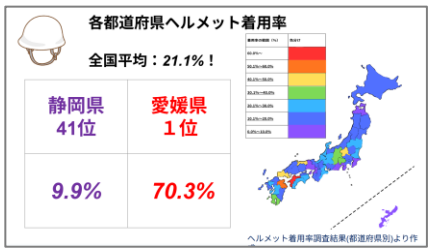
令和７年度第 26 号
令和８年２月３日発行
沼津市立沼津高等学校・中等部

今日は節分。「一年間健康に過ごせるように」という願いを込めて「悪いもの」を追い出す行事です。「季節を分ける」日のため、暦の上では明日から春のはずですが…まだまだ寒い日が続きそうですね。さて、今回も前回に続いて、高校生の探究にかかわる校外活動です。

【高校】“探究”で校外とつながる縁（その２）

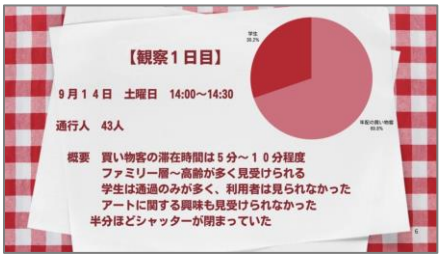
しずおか高校生探究フェスタ　＠常葉大学
（主催：静岡県教育委員会・常葉大学）２月１日(日)

県内高校生が、実社会や実生活の中から見いだした問いを深めた成果を発表するイベント。参加者は、自身の探究をよりいっそうブラッシュアップする機会が得られ、また他校の生徒とのネットワークが広がります。本校からは、交流部門に５チームが参加。参加者の発表内容とインタビューをまとめました。



のび太（１年）　アートで沼津市をより活気のある街にしよう！

沼津市では、シャッターアートなどを活用した地域活性化の取り組みがある。しかし、その効果や持続性に課題があると考え、「アートを活用して商店街をより活性化するためには」という問いを立て、来訪目的について調査を行った。また、沼津市公認おさかなアートクリエーターの鈴木翔太さんに協力をいただき、アートによる街の魅力発信と成果について調査した。その結果、若者が地域に積極的に関わることが、地域の発信力と魅力をより向上させることが明らかになった。

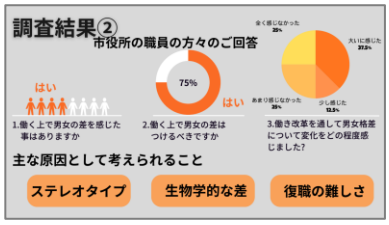


沼津市交通班（１年）　より暮らしやすく自転車事故の無い交通環境にしよう！

沼津市は、自転車の交通事故が県東部の市町で２番目に多い。そこで、高校生の私たちが普段使う自転車での事故がどこでどのように発生し、どのようにしたら減らせるのかを考え、「より暮らしやすく自転車事故の無い交通環境をつくるためには」という問いを立てた。高校生の多くが着用義務化されたヘルメットを被らずに登校している現状に着目し、ヘルメットを被る人を増やして交通事故に対する意識を向上させるアクションを行った。

grow（２年）　日本の農業の未来を救うのは「土のない農業」か？

日本の農業では、高齢化による担い手不足や気候変動による収穫量の不安定化が深刻化しており、このままでは将来的に「農業が続けられない日本」になる恐れがある。最近では、土を使わない工場型の水耕栽培が普及し始めており、安定した生産に期待が高まっていることがわかった。これからの農業には、テクノロジーを活用した効率化と、若者が農業に関わろうと思えるような魅力を発信する取り組みの両立が必要だと考えた。そこで、植物工場について調べるとともに、高校生が実際に水耕栽培を行い、今後の農業のあり方を探究する。また、修学旅行で訪れるシンガポールの食料自給率の低さにも注目し、現地の大学生に聞き取り調査を行って、食料問題への取り組みを学び、日本でも活かせる方法を考察する。



星織り（２年）

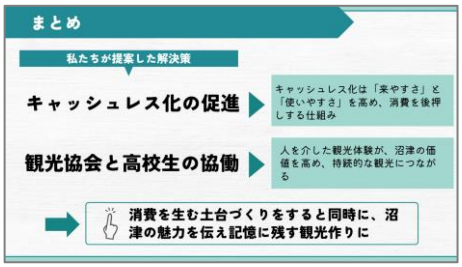
気づいていない男女のリアルな世界線

近年、男女の差をなくすことが企業、政策などの様々な場面において重要な課題になっている。実際に、私たちの高校では、制服の選択肢の多様化や、校則の改正等の取り組みが行われている。このような工夫により、私たちの世代は男女の差の少ない生活が当たり前になりつつある。一方、社会に目を向けると、依然として多くの面で不公平な点がある。例えば、現代社会にどれだけの男女格差が存在しているか調べてみたところ、賃金格差、非正規雇用の割合など深刻な社会問題となっている事柄が多くあることが分かった。このような問題があることを知り、これからこの社会に出ていく私達にとって、この男女格差の意識の問題に視点をおいて解決策を見出そうと考えた。しかし、これは解決することのない問題だと思っており、その差を少しでも減らして多くの人がそのような理不尽な目に合わず、自分らしく生きることの一助となることを願って探究する。

アリちゃんず（２年）

インバウンドによる地域活性化

現在人手不足などの影響により、地域経済が徐々に衰退しつつある。こうした中で、沼津市の経済を活性化させるためには、観光事業による収益の向上が重要であると考える。沼津市には、海や山などの豊かな自然環境があり、そこで取れる海産物や果物など、地域資源に恵まれている。しかし、現状では首都圏からの国内観光客が多く、外国人観光客の訪問は非常に少ない。外国人観光客は、滞在期間こそ短いものの、国内観光客に比べて一人当たりの消費額が高く、地方創生や地域経済の発展において大きな効果が期待できる。そこで本探究では、沼津市が持つ自然や食とといった地域資源を生かし、より多くの外国人観光客を呼び込むための方策を、観光事業の関係者へのインタビューやフィールドワークを通して考察する。



【参加者振り返り】
❶苦労したことや難しかったこと。それをどうのように乗り越えたか。
❷自分たちの発表について（頑張ったこと、意識したこと、結果どうだったか等）
❸他の学校の生徒たちの発表についての感想
❹大学生のファシリテートを見て気づいたこと、参考にしたいこと
❺学んだこと、成長したと思えること、今度はもっとこうしたいと思うこと。

❶・調べ学習で終わらせないことや、考えただけにならないように、形に残るような活動をすることを意識した。
・相手に刺さるプレゼンの仕方をどうすべきかについてずーっと苦労してきました。
・どのようなことを伝えたいのかの案探し→テーマがしっかり定まっていなかった。→ヘルメットをメインテーマとした動画作成に変更し、試行錯誤。
・予定の調整が難しかったです。うまく時間が作れず、任せてしまったり、点と点がつながらないような感覚になることが多くありました。

❷・聞いてくれている人に向けて、目を見て話すようにした。暗くならず、親しみやすい声質で発表。質問にはすぐに答える。結果、より親しみのある発表ができた。動画も高評価でよかった。
・多くの聴衆から質問やアドバイスをもらえたことがとてもうれしく印象的で、自分たちの発表が聞き手の興味を引き付けられたのだろうとらえている。
・原稿を何度か見てしまったり、スライドと自分が被ってしまっていた。突発的なことに対応したい。
・待っているときの立ち姿を意識し、できるだけ話し手の方を見ることを頑張りました。

❸・着眼点がとても魅力的だと感じられるものが多かった。互いの意見交換によってさらに探究が深まっていくところに交流部門の楽しさがあると思った。
・新しい視点をもっているなと驚きました。すばらしい方たちばっかりで、本当に影響を受ける一日でした。
・動画などを用いている班もあり、テーマによっては音のあるものを発表で用いることも効果的ではないかと感じた。
・実際にアクションを起こしていて、中には一人で探究を進めている方もいてすごいなと思った。自分たちの発表につなげられることもたくさんあり、たくさん発見ができた貴重な機会でした。

❹・質疑応答の時間には、質問が出尽くして沈黙を感じたら、発表者からオーディエンスへ質問をさせたり、自身の感想を踏まえて発表をまとめたりなど、毎回異なる工夫を使い分けていて感心した。
・なるべく沈黙の時間を作らないよう、大学生自らが質問をしたり、交流会では空いている時間で質問コーナーなどをして飽きることがないような工夫をしていた。それは自分たちが来年やることと一緒だからしっかり生かせるようにしていきたい。
・自分が実際に行った場合に落とし込んで発表者を褒める発言をしている。

❺・他校の発表を聞くと、学年が変わっても同じテーマを続けていたり、下級生に引き継いでいたりして、長い時間をかけて探究していることに気づいた。３月に行われる校内発表は探究を引き継ぐよい機会になるだろう。
・探究をするのは初めてではありませんがこんなに力を入れたのは初めてだったのでいい成長になりました。次は企業訪問とかもしてみたいです。
・柔軟にまわりを頼りつつ良いものにする必要性に気づくことができました。次回はそういった余裕を残すためにも早めの行動を心掛け、相談をもっとして、どうしたいかを上手く汲めるようにしたいです。
・警察の方が真摯に向き合ってくれて、自分たちの活動に全力で応援をしてくれていたので、ガラリと印象が変わった気がしました。
・このような交流の場を通して、いろいろな方と会話したりして、お互いの価値観や探究に対する熱意などが伝わってきて、自分も刺激をもらう部分があり、人前で堂々と話す自信もつき、たくさん成長することができたよい機会でした。

参加したみなさん、お疲れ様でした！参加した人も、しなかった人も、３月の校内発表頑張ってください☺